

会議名 地域研究委員会文化人類学分科会（第24期・第5回）

日時 令和2年6月29日（月）17:00～18:30

会場 ビデオ会議にて開催 zoom ミーティングID: 827 4343 2557

出席者：稲村哲也、上杉富之、太田好信、窪田幸子、慶田勝彦、小泉潤二、小長谷有紀、小林知、斎藤成也、菅豊、曾我亨、高倉浩樹、竹沢泰子、中谷文美、野林厚志、馬場悠男、速水洋子、丸山淳子、宮崎恒二、森山工、安井眞奈美、山本眞鳥、山極壽一（敬称略）

議題

（1） 前回議事録の確認

- ・確認した

（2） 文化人類学の活用領域に係わる意見交換

（提言・報告に係わるテーマの設定、例：医療人類学、無形文化遺産）

- ・社会的課題への対応：医療人類学、無形文化遺産、国内の地域博物館との連携、さらにWIPO（世界知的財産所有権機関）等
- ・デジタル化やビッグデータ科学の時代における文化の理解
- ・人類学の最前線ではなくむしろ基盤的知識の効用の発信、さらに区分化されない中等教育の社会科そのものの再構想
- ・上記の三つの領域について25期で検討することとする。

（3） コロナ禍による文化人類学フィールドワーク教育への影響についての意見交換

- ・M1やD1等これからフィールド調査を計画する院生への影響が大きい。
- ・学部については実習がなりたらず、オンラインフィールドワークのような代替措置が取られている。
- ・生態学や動物行動学を含むフィールドサイエンスという広い枠組みでは、データロガーやカメラトラップなど人が介在しない調査手法が劇的に開発されている現状がある。また現地の研究者と協働する方法もある。
- ・人類学教育においてフィールドワークは根源的に人をどのように変えるのか、という点はやはり重要
- ・HRAFの見直し、証言集などの利用の可能性、Youtubeなど含めてデジタル空間調査の可能性
- ・以上の意見を踏まえて、文化人類学学会と共催でウェブシンポジウムの開催について合意した。場合によっては自然人類学会との連携も視野に入れる。

（4） その他

- ・24期中に自然人類学分科会との合同分科会を開催する